



住宅地に近接する系統用蓄電池施設、ルール整備を提言

太陽光発電などの再生可能エネルギーの普及拡大に伴い、電気をためる「系統用蓄電池施設」の整備が全国で進んでいます。一方で、住宅地に近接した立地や騒音への不安、住民説明のあり方などが課題となっています。9月議会では、法制度の整理とともに、住民説明やルール整備の必要性について質しました。

発電所



送配電網



家庭や事業所



系統用蓄電池とは？

電力需要が少ない時間帯に電気をため、必要な時間帯に放電する施設です。電力の需給調整や安定供給を支える設備として国が補助制度を設けて推進しており、全国で民間事業者による整備が進んでいます。

充電

放電

系統用蓄電池



現状の課題

- ・住宅地に近接した場所へ設置される場合があること
- ・全国で騒音や低周波音、住民説明を巡る事案が発生していること
- ・沼津市でも住宅から数メートルの場所で設置計画が進行していること

市からの答弁

- ・騒音や低周波音には、騒音規制法などにに基づき対応
- ・安全性や生活環境への影響に対する住民の不安への配慮が重要
- ・実効性のあるルール整備に向け検討

私からの提言

- ・住宅地に近接する場合のルール整備
- ・住民説明の仕組みを整える
- ・地域との合意形成や情報公開を重視
- ・先行事例を参考にした制度設計



沼津市議会
議会中継

住宅地に近接する場合の生活環境への配慮は欠かせず、県内他市町でも取組が進んでいます。地域との共生を図るためにもルール整備は待ったなし。注視・提言を続けます。議場での質疑の様子は、沼津市議会ウェブサイト(左記QRコード)で実際の映像を視聴いただけます。



© SA-YA

その他議会で取り扱った内容について

沼津南一色線 暫定供用を延期

高尾山古墳を保存するため、橋梁2車線・トンネル2車線での整備を進めている沼津南一色線について、令和8年度から予定していた橋梁部分の暫定供用が延期となりました。工事費の高騰や想定以上に硬い岩盤への対応が必要となったためです。

この先、令和8～9年度にかけて工事費の精査や価格交渉を行った後に、新たな整備スケジュールが決まります。(令和10年代前半に計画していた全線開通も遅れる予定です)

沼津南一色線は、東名・新東名や国道246号と市街地を結ぶ重要な幹線道路です。渋滞緩和や通学路の安全向上につながるよう、引き続き取り組みます。



市民文化センターの大規模改修

令和7～13年度までの全4期にわたる大規模改修を進めている市民文化センター。今回の議案の対象は第2期工事で、大ホールの舞台設備や照明・音響設備の更新、展示室の機能向上などを行う約40億円の事業です。

議案審議では、改修内容や工事費の妥当性、施設機能の向上、今後の活用方針などについて確認しました。

今回取り扱った第2期の展示室の機能強化に加え、第4期工事では文化芸術活動や地域部活動の拠点機能の充実も予定されています。市民文化センターは文化芸術活動を支える重要な施設です。より良い施設となるよう、今後の整備も見守っていきます。



期日前投票所拡大の提言が実現

令和9年4月の統一地方選挙から「ららぽーと沼津」と「静浦地区センター」に期日前投票所が設置されます。(それぞれ投票日前日までの木・金・土の開設を想定) 今回の議会では、そのために必要なネットワーク整備費780万円を補正予算で審議しました。本テーマは継続して提言してきた内容で、ようやくの実現となりました。

投票しやすい環境づくりは民主主義を支える重要な基盤です。さらなる取組として、高齢者や交通手段の確保が難しい方などを対象とした「移動投票所」(投票所を載せた車両が地域を巡回)の導入を提言していきます。



消防団組織の見直しを検討

団員の減少や担い手不足への対応として、沼津市消防団の組織見直しが始まります。令和8年度に再編原案を作成し、令和9年度に検討委員会で協議する予定です。

背景には団員数の減少があります。消防団の定員999人に対して令和8年4月現在の団員数は732人で、地域によっては分団の維持が難しい状況となっており、消防団から市に対して「組織見直しを求める上申書」が提出されていました。

消防団は地域防災の要です。人口減少や少子高齢化が進む中でも地域防災力を維持・強化できるよう、再編内容を見極めていきます。



今回の議会でも、市民生活に関わる様々な課題が議論されました。身近な課題から将来を見据えた課題まで、着実に前へ進めることが大切です。引き続き、皆さまの声を市政につなぎながら取り組み、より暮らしやすく、安心して住み続けられる沼津を目指します。

